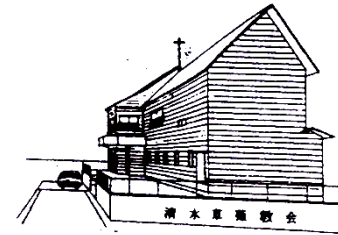


週報

2008年 7月 27日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上定幸

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

《今朝の聖書から》イエス様は奇跡的な癒しをもって人々の救いのために働かれたときも、“誰にも言わないように”と仰っています。また、主のなさるしるしを見て、リーダーに祭り上げようとしたときにも、ひそかに山にこもるようなことをされました(ヨハネ6:15)。私達がもし、ビジネスを企画しようとしているのであればこのようなことはしないで、皆の前に現れ、またPRするようにといたうでしょう。ここでも同じことから問題ははじまっています。祭りの時、それは人々に教え、有名になろうとするには適した時でしょう。”兄弟たちのすすめ”と今朝の聖書箇所にあるのは、このように考えてしまう人々には、もっともなことなのです。兄弟もイエス様のことを正しく理解できていなかったということになります。しかし、身をひそめることを目的に隠れたのではないのです。完全に身を隠されたのであれば、誰も知らないで今日に至っていることになってしまいます。隠れることによって現れたのです。啓示(本来現れるという意味でうが)というのはそのようなものとして描いているのが聖書です。完全に現れてしまったら、世界の価値観と変わることのないものになるでしょう。“正しいものに変えられる”ということがなくなってしまうのです。主は“神を信じること”を望まれたのです。また“時ということ”をテーマにしておられます。どんな問題でも、解決されたり克服されるには時があることも私達は知っています。その時まで、いつも考え続け、苦勞し続けるのが常ではないでしょうか。その間に問題も変わっていたり、全く新しい願いに置き換えられていたり、実に私達を成長させてくれているのではないのでしょうか。ここでイエス様の“時はまだ来ていない(7:6)”とありますが、それは十字架の時のことでしょう。すべてが完成される時のことです。もう一つ“時”という言葉が聞いているすべての人に語られています、“あなたがたの時”という言葉です。それは備わっている、ということです。私たちこそ、受け入れてくれない祭りの場に行くべきだ、といわれているのです。果たして行っているのでしょうか。行きたいものです。いろいろな情報が飛び交う世界の中で、それらに惑わされず(7:12)、皆が口にするのを嫌って、噂に明け暮れているなかで、主の証人であることを学びましょう。